当院が「日経実力病院調査」2013年度版に掲載(p184)されました!!

ロボット手術 ダヴィンチ

IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会

東京腎泌尿器センター大和病院

腎泌尿器疾患と女性疾患を含む骨盤腔内疾患に特化した医療を提供

3Dナビゲーション、手術シミュレータを開発し手術ロボットの適切な運用に努める

院長 **志賀 淑之**

しが・よしゆき●1994年筑波大学医学専門学群卒業。亀田総合病院腎センター、社会保険埼玉中央病院、筑波大学附属病院、日製日立総合病院、虎の門病院、聖路加国際病院、明理会中央総合病院を経て、2012年5月東京腎泌尿器センター大和病院院長に就任。日本泌尿器科学会認定 泌尿器科専門医

人間とロボットの良いところを合わせる

手術ロボット「ダヴィンチ」は向けられる期待が大きい分、よりいっそう精度の高い治療を提供しなければ患者の満足は得られない。このように考える志賀淑之院長は、ダヴィンチの優れた性能をさらに補完する方法を同院ロボット手術センター技術顧問を務める杉本真樹医師(神戸大学大学院)と探究している。CTの3次元画像をもとにしたナビゲーションはそのひとつだ。血管と臓器の位置は複雑で一人ひとり異なる。ナビゲーションを用いることで、細部がどのようになっているのかを立体的に把握した上で手術を進めることができる。ロボット手術といっても、診断し、治療プランを立てるのは医師の役割。細部の適切な把握によって、ダヴィンチが得意とする細かい作業をより一層生かすことができるのだ。

ダヴィンチでは病巣を10倍に拡大した3次元画像をもとに手術を行う。手ぶれ防止機能や、実際の手の動きをより微細な動きに変換するモーションスケールを有し、剥離や縫合などの精度の高い手術操作が可能だ。神経や血管を傷つけるリスクを軽減し、また、炭酸ガスでおなかを膨らませて手術を行うので血管が圧迫され、出血も抑えられる。がんの取り残しを防ぐ根治性の高さと、筋肉や神経を残す機能温存の両立を図ることができる。

❶待合室のアクアリウム
❷動線が他科と交わらないように配慮されたレディースセンター。女性医師を配置し、泌尿器科と連携した治療を特徴としている

❸2種類の最新機器を導入し、結石の大きさ、数、部位等に応じた破砕を行う
❹手術ロボット「ダヴィンチ」。前立腺がんに対する前立腺全摘手術では、尿失禁、性機能障害の低減が期待されている

このようなテクノロジーを結集した最新機器に対し、あえて注文をつけるとすれば、「触覚」の欠如だという。手術が早く、出血も少ない、上手といわれる医師は手に伝わる感触からも多くの情報を得て、頭の中で全体像を適切にイメージできる。ダヴィンチに触覚のサポートは無いが、志賀院長のようなベテラン医師らは豊富な開腹手術の経験をもとに、感覚を補って手術を進めているという。志賀院長は開腹手術経験の少ない医師が訓練できるように、手術シミュレータの開発にも取り組んでいる。

「今後、前立腺全摘手術以外も保険適用が認められ、多くの患者さんがロボット手術の恩恵を受けられるようになるには、一層の普及と、合併症の少ない良好な成績を残すことが求められます。そのために、私はさまざまな取り組みを全てオープンにし、ロボット手術に関する若い世代の啓蒙に役立てたいと考えています」と志賀院長は話す。

取材/斉藤雅幸

診療科目:泌尿器科、婦人科、内科、消化器内科、腎臓内科、乳腺外科、皮膚科
診療時間:月~金 8:30~12:30/14:00~17:00
土 8:30~12:30
休診日:日・祝
〒173-0001 東京都板橋区本町36-3
都営地下鉄三田線「板橋本町駅」A2出口直結
TEL.03-5943-2411
http://www.ims.gr.jp/yamato/

AD